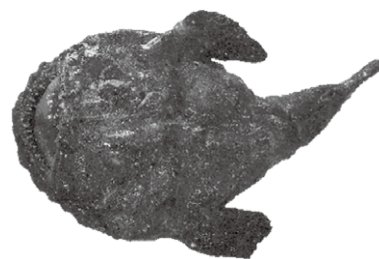


キアンコウ

Lophius litulon

地方名
あんこう、あんこ、
げろ（鱒ヶ沢町）



生態

- ①寿命：13年以上
- ②成熟：メス体長50cm以上
- ③産卵期：津軽海峡では6月～7月
- ④分布：北海道以南から朝鮮半島沿岸および東シナ海まで分布
- ⑤生態：主に水深200m以浅の大陸棚上に生息。水温の変化や産卵活動に伴い深淺移動を行う。水深50～80mの海底から容易に水面付近まで浮上することが可能であり、ミズドリを捕食していたという記録もある。
- ⑥成長：太平洋北部海域における年齢形質を用いた成長解析は無く、成長は漁獲物体長組成からのみ推定されている。下北地域県民局むつ水産事務所が実施した標識放流では、136個体が再捕されており、そのうち最も成長した個体は、全長40cm（推定体重1.1kg）で放流された個体が351日後の再捕時には59cm、2.9kgに成長した。結果から得られた関係式によると、津軽海峡から太平洋にかけて分布するキアンコウは、全長40cmの個体は6ヶ月後に49cmに、体重2.0kgの個体は6ヶ月後に3.3kgに成長することが推定された。

主な漁業

キアンコウはほぼ周年にわたって県内全域で漁獲される。太平洋、日本海では底びき網、津軽海峡、陸奥湾ではさし網、底建網等での漁獲が多い。冬季及び春季から夏季に多く漁獲されるが、春季から夏季には価格が極端に安くなる。

漁獲の動向

キアンコウの漁獲量は、青森県海面漁業に関する調査結果書では平成17年から集計されており、それ以前の漁獲データはない。漁獲量は平成17年以降、平成21年まで900トン前後で推移していたが、その後は減少し、平成28年の漁獲量は402トンであった。

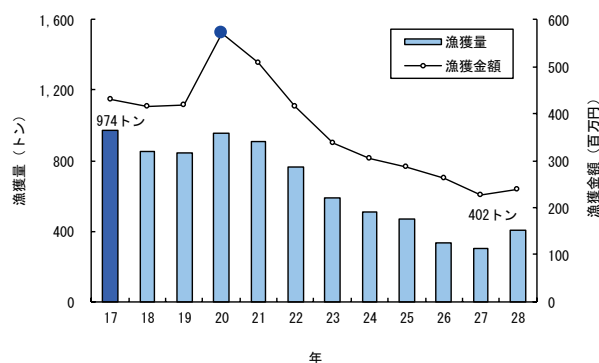
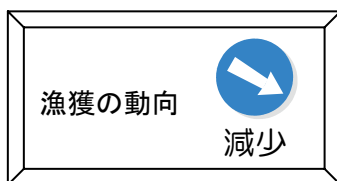


図 青森県におけるキアンコウの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

○風間浦村きあんこう資源管理指針（風間浦村きあんこう資源管理協議会 平成21年10月）

- ・全漁業種類において、体重2キログラム未満の生存個体の再放流について定めた。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・青森県産業技術センター水産総合研究所等は、背鰭第一棘による年齢査定法を開発した。今後は、成長解析等への展開が期待される。

Takeya Y, Takatsu T, Yamanaka T, Shibata Y, Nakaya M. Use of the illicium for age determination and verification of yellow goosefish *Lophius litulon* off Aomori Prefecture, northern Japan. Nippon Suisan Gakkaishi 2017; 1: 9-17 (in Japanese with English abstract).